

真冬日の萌芽

世界はこの40年間、グローバルな金融緩和の波に翻弄されてきました。
2008年の世界的な金融危機では、近代という「信用」を基礎にする社会が沈みかけました。

金融を檻から出し、鎖でつないだ方が社会は豊かになると思っていたけれど、
ペットのつもりがいつのまにかコントロールできない巨大な猛獣になってしまった。
—そんな40年間だったと思います。

一方、同じ40年間でインターネットが普及しiPS細胞が生まれるなど、
社会を根底から変える発明が誕生しています。

今こそ、「人間の行動動機は利潤である」という呪いから放たれ、
社会的動機で世の中を変えることができるのではないのでしょうか？

ソーシャルメディアを通して個人がつくりだす情報が社会を動かしたり、
たった4つの遺伝子を組み込むことでiPS細胞が生まれることを発見したり
といったことを見ていると、そう感じます。

個人が持っている社会的遺伝子を【欲望、自由、主張、依存】といったものから、
【共感、集合、理解、互惠】といったものに変えることができれば、
個人が行動する動機が変わり、その価値が社会革命や宗教対立、
国家対立というような社会の拒絶反応を起こさず、
社会を変革することができるのではないか。

私は、世界的な社会企業家の広がりによってその萌芽を感じるのです。

2012年11月9日
アマタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長 熊野英介